

浜の活力再生プラン（案）
（第 2 期）

1 地域水産業再生委員会

組織名	与那原西原地域水産業再生委員会
代表者名	会長 当真 聡（与那原・西原町漁業協同組合代表理事組合長）

再生委員会の構成員	与那原・西原町漁業協同組合、与那原町、西原町、(株)太新
オブザーバー	沖縄県水産海洋技術センター

※再生委員会の規約及び推進体制の分かる資料を添付すること

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	与那原町、西原町（与那原・西原町漁協管内） 経営体数：58 経営体 漁業種別：ソデイカ旗流漁業 49 名・マグロー本釣 34 名 潜水漁業 1 名・刺網漁業 1 名・珊瑚養殖漁業 1 名 その他 1 名 ※兼業による重複があるため合計は経営体数と一致しない。
-----------------------	--

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>当地域（与那原町、西原町）は、沖縄県の中南部東海岸に位置し、静穏な中城湾と太平洋に面しており、与那原町の当添漁港を拠点として漁業を営んでいる。また、当地域は亜熱帯海洋性気候に属し、年平均気温 23.1℃と温暖で、降雨は梅雨や台風時に偏重し、冬季は季節風の影響を強く受ける地域である。</p> <p>近年の当地域における漁業は、集魚灯による短期航海の一本釣漁業と長期航海にて船内冷凍保管を行うソデイカ旗流漁業を同一船で営む複合型漁船漁業への転化が図られており、これに伴う漁船の大型化やリース事業を活用した大型漁船の隻数増加が進んでいる。</p> <p>当地域の漁業を取り巻く環境として、クロマグロ資源管理による漁獲規制、ソデイカ禁漁期間の延長による、漁期短縮があり水揚漁獲量が低迷し厳しい状況となっている。周辺漁場においては、米軍の訓練に係る広大な操業制限水域があり、更に年々ソデイカの漁場が遠方化してきており漁家経営は厳しい状況にある。</p> <p>このような状況に加え、当地域漁業では、漁船の大型化や隻数増加により燃料給油量が増加し、現状の給油施設では、繁忙期に給油待ちが発生しており、施設の増設が求められている。また漁具に関しても経費が増加しており、現状適正保管する規模の施設がないため、屋外保管により漁</p>
--

具の劣化が著しく、経費が膨らんでいる。

今後は、主要漁獲物であるソデイカ、マグロ類の漁獲量が低迷し厳しい状況になる事を踏まえ、漁獲量の安定化、主要漁獲物の付加価値向上の推進、漁労コスト削減にむけた取り組みが課題となっている。

(2) その他の関連する現状等

当地域では、平成 27 年度に荷捌き施設を新たに整備し、平成 29 年に一般社団法人海洋水産システム協会が認定する優良衛生品質管理市場・漁港認定を取得し、現在も継続している。また荷捌き施設内に冷凍保管庫を整備し新規事業として冷凍保管業務を実施している。主要漁獲物のソデイカに関しては平成 29 年に沖縄県農林水産部よりソデイカ拠点産地認定を取得している。

また広域浜プランの取り組みとして、沖縄県中南部東海岸広域水産業再生委員会を設け、与那原・西原町漁業協同組合、知念漁業協同組合、佐敷中城漁業協同組合の 3 漁協が連携して浜の活力再生に向けた取り組みを実施している。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

【収入向上対策】

① ソデイカ、マグロ付加価値向上対策による単価向上

- 漁協は、ソデイカの販売方法を現状の相対から、セリ入札システムを導入して県内業者に競わせることで単価向上を図る。また、船名別の評価を可能とすることで漁業者全体の品質管理の意識の向上も図る。
- ソデイカ規格外（1 kg 前後）の新規販路開拓と及びマグロ大漁時の契約量販店以外の販路開拓を推進する。
- 漁協は、大日本水産会認定の優良・衛生品質管理市場・漁港認定の更新（令和 3 年度）に必要な衛生管理マニュアルの徹底を継続する。

② ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保存による単価向上

- 漁協は、以前は冷凍庫がなく水揚げ日に業者に納品するしか手段がなかった漁獲物について、漁獲時の鮮度を維持したままの長期保存を可能とし、出荷日や出荷先業者の制約を解消することで、単価向上を目指す。

<p>③ 給油機能強化による円滑な操業体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、A重油タンク 2 基と軽油タンク 1 基を追加整備し、給油能力を強化することで、給油待ち時間の短縮を図り、漁業者の負担を軽減する。 <p>【漁業コストの削減】</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業等への加入促進による漁業コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるため、セーフティーネットへの加入を推進し、新規就業者に対しては、未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業を活用し、漁具の援助による漁業コスト削減を図る。 <p>② 漁具コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、流通作業保管施設（漁具倉庫）を整備し、適正保管による漁具使用年数の延命による漁具コストの削減を図る。
--

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>漁業権における漁業権行使規則の遵守のほか、沖縄海区調整委員会指示に基づき、ソデイカ禁漁の規則を遵守する。加えて当該地域では独自にソデイカ禁漁期間を設定した。資源管理計画を策定しており、毎年沖縄県資源管理協議会に報告している。</p> <p>沖縄海区調整委員会指示：毎年6月 1日から11月30日までのソデイカ禁漁 当該地域自主規制：毎年5月29日から11月30日までのソデイカ禁漁</p>
--

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和3年度）0%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【収入向上対策】</p> <p>① ソデイカ、マグロ付加価値向上対策による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、他地区との差別化を図るため、大日本水産会の優良衛生品質管理市場・漁港認定を更新する。 ● 漁協は、令和5年度のセリ入札システム導入に向けて情報収集を始める。 ● 漁協は、ソデイカ規格外（1kg前後）の新規販路開拓及びマグロ大漁時の契約量販店以外の販路開拓に向けて情報収集を始める。 <p>② ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保存による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、船内冷凍されたソデイカとソデイカ（頭）の単価向上のため、これらを買取り、平成27年度に整備した冷凍保管庫を活用して冷凍保管を行い、漁獲時の鮮度を維持した状態の製品を、その時々々の引合いに応じて出荷できる体制を構築することを検討する。 <p>③ 給油機能強化による円滑な操業体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、当添漁港内にA重油タンク 2 基と軽油タンク 1 基を追加整備し、
---------------------	---

	それに向けたルール作りや説明会等の準備をする。
漁業コスト削減のための取組	<p>【漁業コストの削減】</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業等への加入促進による漁業コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、漁業者に対し燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるために漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を積極的に促進し年 1 回の説明会を実施する。また新規就業者に対しては未来のマリンパワー確保・一貫支援事業を活用し漁具の支援を図る為、沖縄県水産課と調整し、対象漁業者に説明をする。 <p>② 漁具コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協とソデイカ漁業者が中心となり、作業効率向上、資漁具コスト削減等の目的を達成するため、当添漁港の流通作業保管施設（漁具倉庫）整備について実施設計を開始する。
活用する支援措置等	<p>(国)水産業強化支援事業・・・[収入向上対策]・・・③</p> <p>(国)漁業経営セーフティーネット構築事業・・・[漁業コストの削減]・・・①</p> <p>(県)未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業・・・[漁業コストの削減] ①</p>

2年目（令和4年度）0.1%

漁業収入向上のための取組	<p>【収入向上対策】</p> <p>① ソデイカ、マグロ付加価値向上対策による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、他地区との差別化を図るため、前年度に更新した大日本水産会の優良衛生品質管理市場・漁港認定の基準に基づく衛生管理マニュアルの徹底を継続する。 ● 漁協は、次年度のセリ入札システム導入に向けて引き続き情報収集を行う。 ● 漁協は、ソデイカ規格外（1 kg前後）の新規販路開拓、マグロ大漁時の契約量販店以外の販路開拓に向けて引き続き情報収集を行う。 <p>② ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保存による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保管販売体制を構築し、運用を開始することにより、単価向上を図る。 <p>③ 給油機能強化による円滑な操業体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、当添漁港内に整備したA重油タンク 2 基と軽油タンク 1 基の施設供用を開始し、説明会を開催し円滑な給油体制を運用する。
--------------	--

<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>【漁業コストの削減】</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業等への加入促進による漁業コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、漁業者に対し燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるために漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を積極的に促進し年一回の説明会を実施する。また新規就業者に対しては未来のマリンパワー確保・一貫支援事業を活用し、新規漁業者1名に漁具の支援を図る。 <p>② 漁具コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、当添漁港内に作業効率向上、漁具コスト削減等を目的とする流通作業保管施設（漁具倉庫）を整備するとともに、施設利用関連の規定や全体のルール作りについて説明会を開催する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>(国)漁業経営セーフティーネット構築事業・・・[漁業コストの削減]・・・① (県)未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業・・・[漁業コストの削減] ① (国)水産業強化支援事業・・・[漁業コストの削減]・・・②</p>

3年目（令和5年度）3.1%向上

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>【収入向上対策】</p> <p>① ソデイカ、マグロ付加価値向上対策による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、他地区との差別化を図るため、大日本水産会の優良衛生品質管理市場・漁港認定の基準に基づく衛生管理マニュアルの徹底を継続し令和6年度更新に向け準備をする。 ● 漁協は、セリ入札システムを導入し県内業者に競わせることで単価の向上を図る。 ● 漁協は、ソデイカ規格外（1kg前後）の新規取引を開始。マグロについても大漁時の契約量販店以外の新規取引先と取引を開始する。 <p>② ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保存による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、前年に構築した、ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保管販売体制の運用により、単価向上を図る。 <p>③ 給油機能強化による円滑な操業体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、令和3年度に整備したA重油タンク2基と軽油タンク1基による円滑な給油体制により給油待ち時間の短縮を図り、漁業者の負担を軽減する。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>【漁業コストの削減】</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業等への加入促進による漁業コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、漁業者に対し燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるため

	<p>に漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を積極的に促進し年一回の説明会を実施する。また新規就業者に対しては未来のマリンパワー確保・一貫支援事業を活用し、新規漁業者1名に漁具の支援を図る。</p> <p>② 漁具コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協とソデイカ漁業者が中心となり、流通作業保管施設（漁具倉庫）を活用した作業効率の向上、漁具コスト削減等の取組を開始する。
活用する支援措置等	<p>(国)漁業経営セーフティーネット構築事業・・・[漁業コストの削減]・・・①</p> <p>(県)未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業・・・[漁業コストの削減]①</p>

4年目（令和6年度）6.2%向上

漁業収入向上のための取組	<p>【収入向上対策】</p> <p>① ソデイカ、マグロ付加価値向上対策による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、他地区との差別化を図るため、大日本水産会の優良衛生品質管理市場・漁港認定を更新する。 ● 漁協は、セリ入札システムを運用し県内業者に競わせることで単価の向上を図り、船主別にソデイカの評価も実施する。 ● 漁協は、ソデイカ規格外（1kg前後）と、マグロ大漁時の契約量販店以外の取引を継続する。 <p>② ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保存による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保管販売体制の運用により、単価向上を図る。 <p>③ 給油機能強化による円滑な操業体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、令和3年度に整備したA重油タンク2基と軽油タンク1基による円滑な給油体制により給油待ち時間の短縮を図り、漁業者の負担を軽減する。
漁業コスト削減のための取組	<p>【漁業コストの削減】</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業等への加入促進による漁業コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、漁業者に対し燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるために漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を積極的に促進し年一回の説明会を実施する。また新規就業者に対しては未来のマリンパワー確保・一貫支援事業を活用し、新規漁業者1名に漁具の支援を図る。 <p>② 漁具コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協とソデイカ漁業者が中心となり、流通作業保管施設（漁具倉庫）の活用による作業効率の向上、漁具コスト削減等の取組を継続する。

活用する支援措置等	(国)漁業経営セーフティーネット構築事業・・・〔漁業コストの削減〕・・・① (県)未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業・・・〔漁業コストの削減〕①
-----------	--

5年目（令和7年度）10.5%向上

漁業収入向上のための取組	<p>【収入向上対策】</p> <p>① ソデイカ、マグロ付加価値向上対策による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、他地区との差別化を図るため、前年度に更新した大日本水産会の優良衛生品質管理市場・漁港認定の基準に基づく衛生管理マニュアルの徹底を継続する。 ● 漁協は、セリ入札システムを運用し県内業者に競わせることで単価の向上を図り、船主別にソデイカの評価も継続する。 ● 漁協は、ソデイカ規格外（1kg前後）と、マグロ大漁時の契約量販店以外の取引を継続する。 <p>② ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保存による単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、ソデイカとソデイカ（頭）の冷凍保管販売体制の運用により、単価向上を図る。 <p>③ 給油機能強化による円滑な操業体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、令和3年度に整備したA重油タンク2基と軽油タンク1基による円滑な給油体制により給油待ち時間の短縮を図り、漁業者の負担を軽減する。
漁業コスト削減のための取組	<p>【漁業コストの削減】</p> <p>① 漁業経営セーフティーネット構築事業等への加入促進による漁業コスト削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協は、漁業者に対し燃油の高騰による漁業コストの圧迫に備えるために漁業経営セーフティーネット構築事業への加入を積極的に促進し年一回の説明会を実施する。また新規就業者に対しては未来のマリンパワー確保・一貫支援事業を活用し、新規漁業者1名に漁具の支援を図る。 <p>② 漁具コストの削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 漁協とソデイカ漁業者が中心となり、流通作業保管施設（漁具倉庫）の活用による作業効率の向上、漁具コスト削減等の効果を算出、評価し、漁業者に周知する。
活用する支援措置等	(国)漁業経営セーフティーネット構築事業・・・〔漁業コストの削減〕・・・① (県)未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業・・・〔漁業コストの削減〕①

(5) 関係機関との連携

<p>【沖縄県水産海洋技術センター】 沿岸漁業の再生に関する他県の実績事例の紹介</p> <p>【与那原町役場・西原町役場】 水産業活性化に伴う各種補助金等の支援や町内広報活動支援 施設整備に伴う運用ルール作り、規定作成等の助言</p> <p>【株式会社太新】 セリシステム導入に向けたルール作り等の助言</p>
--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成27年度～令和元年度5中3平均： 漁業所得（1経営体あたり） 千円
	目標年	令和7年度： 漁業所得（1経営体あたり） 千円

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

(3) 所得目標以外の成果目標

ソデイカ単価向上	基準年	平成27年度～令和元年度5中3平均：1,041円/kg
	目標年	令和7年度：1,110円/kg

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>基準値は、平成27年度から令和元年度の5中3平均とした。</p> <p>目標値は、セリ入札システムの導入による県内業者競争や冷凍保管販売体制の構築、運用による単価向上を見込み設定した。近年の全国的なイカ不漁により、長期冷凍保存可能な県内ソデイカの評価が向上していることや、11月禁漁となったことで、安価な小さいサイズのソデイカの漁獲量が減少し、ある程度成長し成体となったソデイカの漁獲量が増加したことで全体的な単価が</p>

向上し、令和2年度においては、ソデイカ単価が1,194円まで上昇したことを踏まえれば、目標単価1,110円/kgは妥当と思われる。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
1.水産業強化支援事業【国】	【収入向上対策】③ A重油タンク2基・軽油タンク1基整備による円滑な給油体制を構築し、給油能力を強化することで、給油待ち時下の短縮を図り、漁業者の負担を軽減する。 【漁業コストの削減】② 流通作業保管施設（漁具倉庫）整備により作業効率向上、漁具コスト削減を図る。
2.漁業経営セーフティーネット構築事業【国】	【漁業コストの削減】① セーフティーネットへの加入促進により、燃油高騰時の経費削減を図る。
3.未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業【県】	【漁業コストの削減】① 新規漁業就業者に対して、漁具の補助による経費削減を図る。

※関連事業には、活用を予定している国（水産庁以外を含む）、地方公共団体等の補助金・基金等を記載。ただし、本欄への記載をもって、事業の活用を確約するものではない。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。